

第 V 群 座長のまとめ

東 北 大 耳鼻咽喉科

高 坂 知 節

この群では、「鼻咽腔異常感症」「急性鼻炎」「慢性鼻炎」「慢性副鼻腔炎」などに対する局所温熱療法の効果についての報告がなされた。使用器材は、いずれもミドリ安全(株)より発売されているサーモライザー[®]である。

新潟大学の山岸らは、6項目にわたる診断基準を満たしている鼻咽腔異常感症の患者14例(男性6名:女性8名)に対して本療法を週2回、1回15分の条件下に行った。日記記載方式による症状別効果判定により、「鼻の奥がヒリヒリする感じ」75.0%、「鼻がのどに溜る感じ」66.7%などの改善を得た。全般的にみると著明改善21.4%、改善28.6%、軽度改善14.3%となり、50%以上の症例において改善をみたという。本報告により、従来より有効な治療法の少なかった「鼻咽腔異常感症」に対しても、本法を試みしてみる価値のあることが確認された。

次に、山口大学の木戸らは鼻疾患に対して本法を行い、急性炎症では2, 4, 7日目に、また慢性炎症に対しては2, 4週と3, 6週に効果判定を行った。症例の内訳は、通年性鼻アレルギー14例、感冒時鼻炎7例、慢性鼻咽腔炎7例、慢性副鼻腔炎10例であった。成績は「通年性鼻アレルギー」において自他覚所見のすべてに有効以上の改善をみたのが2週目より4週目で著しく上昇した。「感冒時鼻炎」では2, 4, 7日目と日数を経るに従って改善率が上がり、7日目では全例の改善をみた。「慢性鼻咽腔炎」では特に頭重または頭痛の改善が著しく、4週目で66.7%の著効を得ることができた。「慢性副鼻腔炎」でも全般改善度において有効以上が3週目33.3%、6週目40.0%であったという。全例にわたって副作用などのSide effectsは認められず、極めて安全性の高い治療法と評価している。

以上の如く、サーモライザー[®]による鼻腔局所温熱療法の効果が報告され、今後の本療法の普及に貢献するところ大であった。